

GIII 桜花賞 海老澤清杯

4/14(木) 15(金) 16(土) 17(日)  開催 川崎スポーツ



レース展望 //

4月14日から開催される川崎競輪は開設73周年記念、桜花賞・海老澤清杯が開催される。各地から実力者が集結して四日間の熱いレースが繰り広げられるだろう。

各地からの強豪を地元ホームバンクで迎え撃つのは郡司浩平(神奈川99期)で過去の桜花賞は3回の優勝、ここまで2連覇中の実績を持つ。南関地区的布陣は強力で、深谷知広(静岡96期)に根田空史(千葉94期)の実績ある機動型に、ホームの内藤秀久(神奈川89期)や松谷秀幸(神奈川96期)らも第二、第三の役どころで終わるつもりはないだろう。青野将

大(神奈川117期)、佐々木真也(神奈川117期)らの若い力も地元記念を盛り立てる活躍に期待したいところ。

地元勢にとって最大の難敵となるのは松浦悠士(広島98期)。清水裕友(山口105期)との実績豊富なホットラインで襲い掛かってくるだろう。九州勢は若手の成長株岩谷拓磨(福岡115期)と小川勇介(福岡90期)の同門コンビや流れに応じた柔軟な走りができる瓜生崇智(熊本109期)らが中心となり虎視眈々とV機を待つ。

北日本勢はS班の守澤太志(秋田96期)が

苦戦しているものの、ベテランの成田和也(福島88期)が息を吹き返してきている。しかし北日本の機動型不足は否めず、渡邊一成(福島88期)頼みとなるか、守澤や成田が自ら道を切り開く形となりそうだ。

最後に関東勢。いまや関東の若手の代表格と言える吉田拓矢(茨城107期)と昨年一気にブレイクした宿口陽一(埼玉91期)のS班コンビは別線を轟かす実力者。このバンクに強い山岸佳太(茨城107期)や吉澤純平(茨城101期)らも優勝争いに加わるだけの力がある。

難敵揃つも郡司が3連覇狙う!!



郡司浩平 神奈川 99期

いまや神奈川の絶対エースとなった郡司浩平。昨年は2月に行われた川崎の全日本選抜で悲願の地元G1制覇を果たしており、GP出場を早々に決めた。現在2つのタイトルを保持する郡司だが、この桜花賞に対する想いも人一倍強く現在2連覇中。南関ラインのために献身的な走りもしてきたし、勝負所では流れに応じた冷静な走りができる。昨年から深谷知広(静岡96期)が南関に移籍したことでも非常に大きく、今開催も参加している。この2人が同乗すれば非常に強力なタッグとなるだろう。SS級をはじめ強力なメンバーが集結するが、郡司にとっては決勝進出、3連覇が責務とも言える。地元ファンの期待に応えるか。



松浦悠士 広島 98期

抜群の安定感を誇る輪界屈指のオールラウンド。自力でさばいてもトップクラスの実力を誇る。今年に入ても全て決勝進出を決めており抜群の安定感。前回の玉野G3では優勝こそ脇本雄太(福井94期)にさらわれたが、2次予選では岩津裕介(岡山87期)、準決勝では柏野智典(岡山88期)の地元の看板選手である2人にしっかりと勝利を献上した。ラインを重んじた走りができるのも松浦の魅力だろう。現在の中四国地区には清水裕友(山口105期)をはじめとした強力な味方が揃っているし、最近は太田竜馬(徳島109期)も大きく貢献。松浦を中心に中四国ラインが競輪界を席巻していきそうだ。



吉田拓矢 茨城 107期

いまや関東の若手のエースとして活躍する吉田拓矢が登場。いつタイトルを手にしておかしくない高い素質はあったが、昨年の競輪祭で優勝を果たし遂にタイトルホルダーの仲間入り。初のグランプリ出場も決め、一番では積極的な走りを見せて存在感をアピールした。S級S班として参加した年明け初のグレードレース立川記念は優勝でスタートするなど、関東地区の記念でしっかり結果を出して充実の一途。父は哲也(51期・引退)で、昌司(茨城111期)、有希(茨城119期)の弟2人もデビューしてS級で活躍する競輪一家。輪界のスターとして、まだまだ成長を続けていくだろう。優勝候補の一角だ。



S級
注目選手 成田和也
福島 88期

ようやく成田和也がグレードレースの優勝戦線に帰ってきた。昨年の8月、地元平のオールスターで約4年ぶりのG1決勝に進むと、今年に入り2月の全日本選抜取手、3月のG2ワーナーズカップと立て続けに決勝進出。かつてG1で頂点に登り詰めたタイトルホルダーの輝きが戻ってきた。鋭い差し脚にいぶし銀のさばきで、玄人ファンからの支持も大きい。今シリーズは同期の盟友渡邊一成(福島88期)はいるが、北日本全体で見れば機動型は手薄。別線に強力な機動型が揃うだけに苦戦を強いられそうだが、こういう場面をいかに切り抜けていくか。

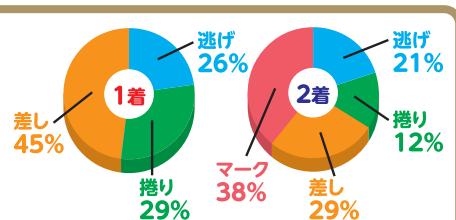


S級
注目選手 青野将大
神奈川 117期

アマチュア時代から輝かしい実績を残して競輪界に入りした青野将大は一年足らずでS級特進を果たした。既に1年以上S級戦を経験しているが「昨年この地元記念で初めて記念を経験しました。9車立てに慣れないまま何も分からずって感じで何もできなかったが、もうあれから1年色々経験はできたので。昨年よりも成長しているところを見せられるように頑張りたいですね」と抱負を語っていた。確かに実績ある強敵を相手に好走する場面も増えてきているし、自分のペースに持ち込めば強力な地脚を發揮して末良く残る。いまや南関ラインの貴重な戦力となっているし、勝ち上がり見せ場を作ってくれるだろう。

川崎競輪場バンクガイド

直線が長く、最終4コーナーから直線にかけてイエローライン付近が強襲コースで外を踏める選手が穴を演出する。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル